

新人保育者に必要な資質について

— 新人保育者に対する総合的な評価につながる具体的な資質 —

高岡 昌子・林 悠子・高橋 千香子・岩本 健一

奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

The Required Abilities for Newcomer Childcare Workers : The Concrete Abilities which leads to the General Evaluation for the Newcomer Childcare Workers

Masako Takaoka・Yuko Hayashi・Chikako Takahashi・Kenichi Iwamoto

Naragakuen University Narabunka Women's College

本研究では、本学の卒業生が就職先において新人保育者としてどのような評価をされているのかについて調べ、各評価項目と総合的な評価（現況での満足度や将来性があると感じること）との関係について検討した。総合的な評価と最も関係の深い項目は、「保育者として責任感をもって日々の業務に取り組んでいますか。」であり、2番目には、「保育者としてふさわしいマナー（身だしなみ、態度、言葉遣い）ができていますか。」であった。これらに対して、総合的な評価に強くはつながらなかった項目は、「保育理論を日々の保育に生かし工夫していますか。」で、2番目には、「日々の保育で曲想をとらえてピアノ伴奏をしていますか。」であった。つまり、新人保育者にとっては高い技術や知識よりも、まずは新人保育者であるという立場をわきまえて、礼儀正しく、日々の業務に何事にも意欲的に取り組み、前向きに学ばせていただくという姿勢が必要なのである。このような姿勢は、全体的に高い評価を得た新人保育者についての自由記述においても書かれていた。それに対して、全体的に低い評価であった新人保育者についての自由記述においては、社会人としての基礎力不足について書かれていることが多かった。卒業後における新人保育者としての総合的な評価得点・各項目における評価得点と在学中の累積GPAの値との相関もみたが、すべての項目において相関はなかった。これらの結果を保育者養成校における今後の教育に活かしていきたいと考えている。

キーワード：新人保育者に必要な資質、新人保育者の姿勢・能力、社会人としての基礎力、
保育者養成校の課題

1. はじめに

保育者に求められる資質について、多くの研究がなされてきた（前迫他（2004）¹⁾、江田（2007）²⁾、林他（2012、2014、2016）^{3), 4), 5)}など）。例えば、林他（2012）では、平成17年度から平成22年度までの間の本学卒業生の保育者としての就職先に対して行ってきたアンケート調査から、保育現場ではまず保育者としての「技術や知識」「資質」が求められ、同時に社会人としての力や保育者として働く意識などが求められることが明らかとなった³⁾。また林他（2016）では、平成23年度から平成26年度までの間の本学卒業生の保育者としての就職先に対して行ってきたアンケート調査から、保育現場では即戦力として役立つ保育の実践力は当然ながら、保育者の資質や社会人としての態度や覚悟、特に「社会人基礎力」とされる、チームで働く上で重要視される様々な能力が求められていることが示唆された⁵⁾。これらの研究成果を教員間で共通理解し、学生が望ましい保育者として就職していけるために必要な内容を日々の教育に取り入れてきた。今回は平成27年度の本学卒業生の保育者としての就職先に対して行ったアンケート調査結果から、各評価項目と総合的な評価（現況での満足度や将来性があると感じること）との関係について調べ、どのような内容が総合的な評価につながるのかについて調べた。また全体的に高い評価を得た新人保育者についての自由記述内容と、全体的に低い評価であった新人保育者についての自由記述内容とを調べ、保育者養成校における今後の教育に活かすことのできる情報を得たいと考えている。さらに卒業後における新人保育者としての総合的な評価得点・各項目における評価得点と在学中のGPAの値との間に相関があるのかを調べ、今後の指導に役立てていきたいと考えている。

2. 方法

2.1 調査内容

本学では、授業や就職指導のより一層の改善を図ることを目的とした現状把握のため、「卒業生の現況に関するアンケート」と題して卒業生の就職先に対してアンケート調査を毎年行っている。おもな内容は「1. 在職状況について」「2. 保育者としての姿勢について」「3. 保育の実践力について」「4. 職場でのコミュニケーションについて」「5. 本学卒業生の勤務状況について」「6. 本学卒業生の総合的な評価について」の6つの観点による質問項目について4件法で回答を求めた。そして最後に「上記内容も含めて、本学への要望等お書きください」として自由記述を求めた。本稿では、保育者の資質についてみるために、アンケート中、「2. 保育者としての姿勢について」「3. 保育の実践力について」「4. 職場でのコミュニケーションについて」「5. 本学卒業生の勤務状況について」と、特に「6. 本学卒業生の総合的な評価について」の項目を取り上げた。この「6」では、卒業生に対する満足度と将来性について問いかけている。

2.2 調査対象・調査方法

平成28年10～11月の期間に、平成27年度の卒業生で保育者として就職している60名の就職先49ヶ所（幼稚園・保育所・認定こども園・施設など）の園長ならびに施設長宛てに卒業生60名分の「卒業生の現況に関するアンケート」を郵送し、記入後に返送していただくことで、卒業生53名分（幼稚園5名分・保育所37名分・認定こども園4名分・施設7名分）についての回答を得た（回答率88.3%）。

2.3 GPA

平成28年3月に卒業した時点での全教科累積GPAの値を使用した。GPAとは「Grade Point Average」の略であり、各履修科目のグレード・ポイント（秀4、優3、良2、可1、不可・失格0）に科目の単位数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を全履修科目の単位数の合計で割ったものである。

3. 結果および考察

3.1 各項目における評価

図1は、平成27年度の本学卒業生に対する保育者としての勤務に関わる各項目（アンケートの内、28項目）の園側からの評価について、その平均値の高い項目から順番に示した図である。図1に示すように、評価が最も高かった項目は、「3-14 子どもや保護者の個人情報について留意していますか。」であり、平均3.23であった。また、2番目に評価が高かった項目は、「2-1 保育者としてふさわしいマナー（身だしなみ、態度、言葉遣い）ができていますか。」であり、平均3.15であった。これらに対して、最も評価の低かった項目は、「3-13 保護者に育児不安等が見られる場合には、育児等に対して相談・助言ができていますか。」であり、平均1.66であった。その次に低かった項目は「3-5 日々の保育で曲想をとらえてピアノ伴奏をしていますか。」であり、平均1.70であった。特に評価の低かった項目については、対策を考えていきたい。これらが総合的な評価とどの程度関係しているのかについては次の節でみていきたい。

総合的な評価としては、現況の満足度と将来性があると感じるかどうかに関する評価を得た。満足度については「現時点での本学卒業生の現況について満足されていますか。」という質問で、「十分満足できる」4点、「まあ満足できる」3点、「あまり満足できない」2点、「ほとんど満足できない」1点として、結果は平均2.77点であった。また将来性については「本学卒業生の保育者としての将来性についてどのように感じられていますか。」という質問で、将来性が「十分ある」4点、「まあある」3点、「あまりない」2点、「ほとんどない」1点として、結果は平均3.13点であった。現時点ではやや満足できないが、今後に期待はできるようにみてくださっているところが多いようであった。

3.2 各項目における評価と総合的な評価との関係

3.2.1 各項目における評価と現況における満足度との関係

前節で取り上げた満足度と将来性という総合的な評価につながる力について知るために、詳細に分け

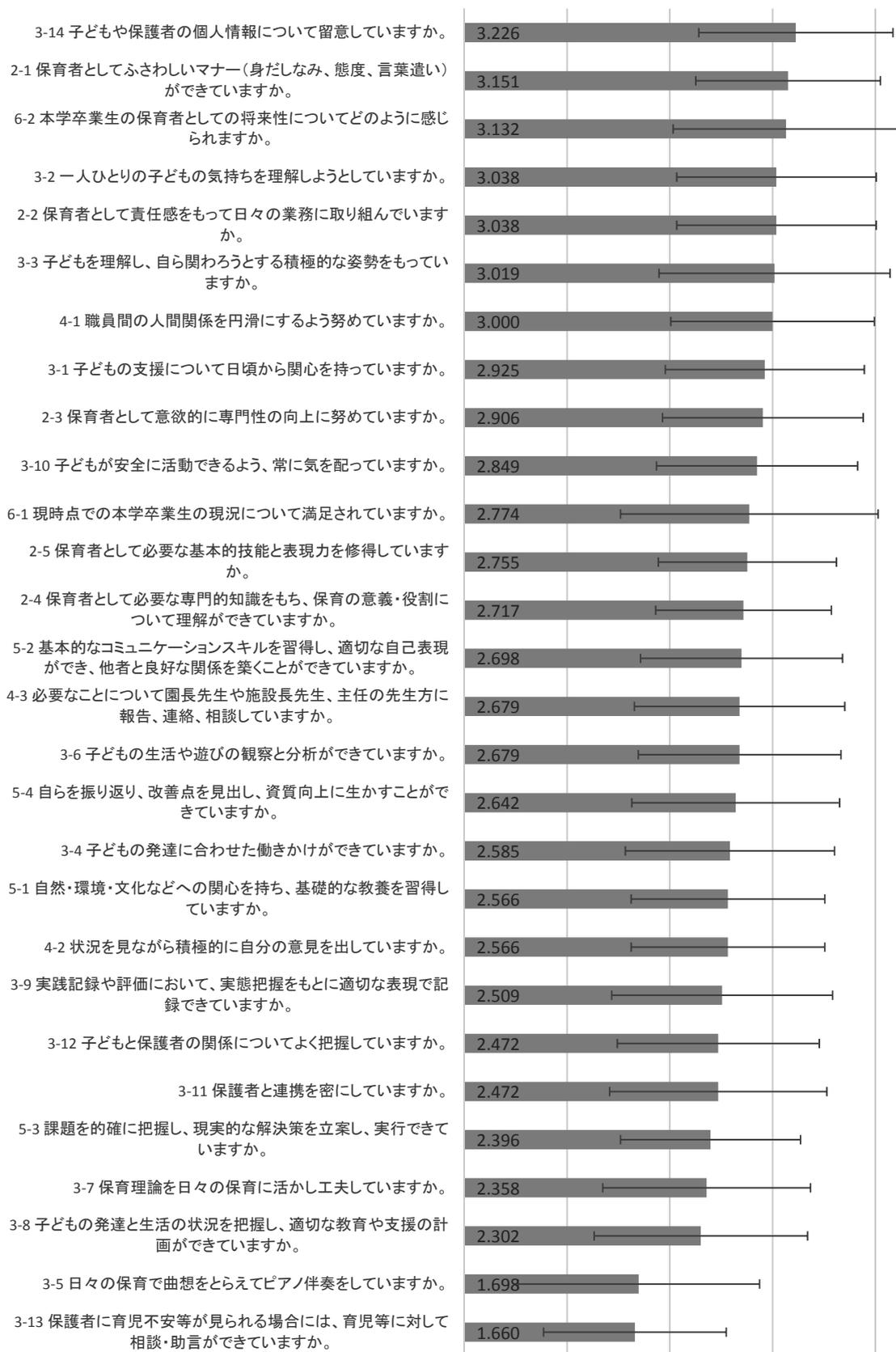


図1 平成27年度本学卒業生の保育者としての各評価（平均と標準偏差）

た個別の評価との相関を算出した（表1）。満足度と関係の深い項目は、「3-2 一人ひとりの子どもの気持ちを理解しようとしていますか。」（相関係数0.705）であった。2番目に満足度と関係の深い項目は、「3-1 子どもの支援について日頃から関心を持っていますか。」（相関係数0.670）であった。3番目に満足度と関係の深い項目は、「2-2 保育者として責任感をもって日々の業務に取り組んでいますか。」（相関係数0.658）であった。4番目に満足度と関係の深い項目は、「2-1 保育者としてふさわしいマナー（身だしなみ、態度、言葉遣い）ができていますか。」（相関係数0.650）であった。5番目に満足度と関係の深い項目は、「2-3 保育士として意欲的に専門性の向上に努めていますか。」（相関係数0.645）であった。これらは、いずれも意欲的に日々の業務に取り組む姿勢が非常に大事だということを示唆しているであろう。

これらに対して、総合的な現況での満足度とあまり関係が深くはないようである項目として、相関係数0.45未満の項目をあげる。最も相関係数の低かった項目は、「3-7 保育理論を日々の保育に生かし工夫していますか。」（相関係数0.421）であった。これは、理論よりも、まずは日々の実践の中から学び経験を積むことが大事であるということであろう。2番目には、「3-13 保護者に育児不安等が見られる場合には、育児等に対して相談・助言ができていますか。」（相関係数0.439）であった。これは、保育者になったばかりの経験不足の余裕のない初心者の保育者にとって、容易な内容とは言えないだろう。したがって、不十分だからといって、現況において不満足であるという評価にすぐにつながることはなりにくいであろう。3番目には「3-4 子どもの発達に合わせた働きかけができていますか。」（相関係数0.444）と「4-2 状況を見ながら積極的に自分の意見を出していますか。」（相関係数0.444）であった。

3.2.2 各項目における評価と将来性があると感じることとの関係

将来性があると感じることに関係の深い項目は、「2-2 保育者として責任感をもって日々の業務に取り組んでいますか。」（相関係数0.738）であった。2番目に将来性と関係の深い項目は、「2-1 保育者としてふさわしいマナー（身だしなみ、態度、言葉遣い）ができていますか。」（相関係数0.706）であった。3番目に将来性と関係の深い項目は、「2-5 保育者として必要な基本的技能と表現力を修得していますか。」（相関係数0.668）であった。4番目に将来性と関係の深い項目は、「2-3 保育士として意欲的に専門性の向上に努めていますか。」（相関係数0.662）であった。5番目に将来性と関係の深い項目は、「3-1 子どもの支援について日頃から関心を持っていますか。」（相関係数0.647）であった。これらは、いずれも意欲的に日々の業務に取り組む姿勢が非常に大事だということを示唆しているであろう。

これらに対して、将来性とあまり関係が深くはないようである項目として、相関係数0.40未満の項目をあげる。最も相関係数の低かった項目は「3-7 保育理論を日々の保育に生かし工夫していますか。」（相関係数0.348）であった。2番目には、「3-13 保護者に育児不安等が見られる場合には、育児等に対して相談・助言ができていますか。」（相関係数0.374）であった。また3番目には、「3-5 日々の保育で曲想をとらえてピアノ伴奏をしていますか。」（相関係数0.381）で、ピアノが弾けるかどうかと、保育者として将来性があると感じるということとは必ずしもつながらないということであった。

表1 平成27年度本学卒業生の保育者としての各評価と総合的な評価との相関

	6-1 現時点での本学卒業生の現況について満足されていますか。			6-2 本学卒業生の保育者としての将来性についてどのように感じられますか。			満足度+将来性		
	相関係数	t値	p値	相関係数	t値	p値	相関係数	t値	p値
2-1 保育者としてふさわしいマナー(身だしなみ、態度、言葉遣い)ができていますか。	0.650	6.110	0.0000	0.706	7.109	0.0000	0.820	10.244	0.0000
2-2 保育者として責任感をもって日々の業務に取り組んでいますか。	0.658	6.247	0.0000	0.738	7.808	0.0000	0.845	11.289	0.0000
2-3 保育者として意欲的に専門性の向上に努めていますか。	0.645	6.034	0.0000	0.662	6.305	0.0000	0.804	9.653	0.0000
2-4 保育者として必要な専門的知識をもち、保育の意義・役割について理解ができていますか。	0.556	4.781	0.0000	0.642	5.976	0.0000	0.760	8.352	0.0000
2-5 保育者として必要な基本的技能と表現力を修得していますか。	0.591	5.238	0.0000	0.668	6.403	0.0000	0.792	9.250	0.0000
3-1 子どもの支援について日頃から関心を持っていますか。	0.670	6.443	0.0000	0.647	6.065	0.0000	0.810	9.879	0.0000
3-2 一人ひとりの子どもの気持ちを理解しようとしていますか。	0.705	7.097	0.0000	0.632	5.821	0.0000	0.817	10.115	0.0000
3-3 子どもを理解し、自ら関わろうとする積極的な姿勢をもってしていますか。	0.512	4.255	0.0001	0.471	3.815	0.0004	0.608	5.470	0.0000
3-4 子どもの発達に合わせた働きかけができていますか。	0.444	3.539	0.0008	0.488	3.987	0.0002	0.550	4.707	0.0000
3-5 日々の保育で曲想をとらえてピアノ伴奏をしていますか。	0.453	3.631	0.0006	0.381	2.946	0.0048	0.538	4.555	0.0000
3-6 子どもの生活や遊びの観察と分析ができていますか。	0.521	4.362	0.0001	0.509	4.222	0.0001	0.659	6.263	0.0000
3-7 保育理論を日々の保育に活かして工夫していますか。	0.421	3.317	0.0016	0.348	2.649	0.0106	0.529	4.449	0.0000
3-8 子どもの発達と生活の状況を把握し、適切な教育や支援の計画ができていますか。	0.574	5.009	0.0000	0.411	3.221	0.0022	0.656	6.203	0.0000
3-9 実践記録や評価において、実態把握をもとに適切な表現で記録できていますか。	0.576	5.028	0.0000	0.438	3.479	0.0010	0.657	6.227	0.0000
3-10 子どもが安全に活動できるよう、常に気を配っていますか。	0.556	4.782	0.0000	0.544	4.635	0.0000	0.691	6.819	0.0000
3-11 保護者と連携を密にしていますか。	0.565	4.888	0.0000	0.563	4.869	0.0000	0.669	6.424	0.0000
3-12 子どもと保護者の関係についてよく把握していますか。	0.500	4.124	0.0001	0.588	5.195	0.0000	0.645	6.026	0.0000
3-13 保護者に育児不安等が見られる場合には、育児等に対して相談・助言ができていますか。	0.439	3.489	0.0010	0.374	2.880	0.0057	0.547	4.667	0.0000
3-14 子どもや保護者の個人情報について留意していますか。	0.489	4.009	0.0002	0.534	4.515	0.0000	0.625	5.721	0.0000
4-1 職員間の人間関係を円滑にするよう努めていますか。	0.486	3.974	0.0002	0.485	3.961	0.0002	0.608	5.462	0.0000
4-2 状況を見ながら積極的に自分の意見を出していますか。	0.444	3.540	0.0008	0.456	3.661	0.0006	0.537	4.541	0.0000
4-3 必要なことについて園長先生や施設長先生、主任の先生方に報告、連絡、相談していますか。	0.546	4.657	0.0000	0.490	4.016	0.0002	0.662	6.306	0.0000
5-1 自然・環境・文化などへの関心を持ち、基礎的な教養を習得していますか。	0.508	4.212	0.0001	0.420	3.302	0.0017	0.614	5.556	0.0000
5-2 基本的なコミュニケーションスキルを習得し、適切な自己表現ができ、他者と良好な関係を築くことができていますか。	0.573	4.987	0.0000	0.508	4.217	0.0001	0.689	6.797	0.0000
5-3 課題を的確に把握し、現実的な解決策を立案し、実行できていますか。	0.528	4.444	0.0000	0.475	3.850	0.0003	0.610	5.496	0.0000
5-4 自らを振り返り、改善点を見出し、資質向上に生かすことができていますか。	0.531	4.480	0.0000	0.467	3.770	0.0004	0.643	6.002	0.0000

3.2.3 満足度と将来性の合計得点から算出した平均得点と自由記述内容との関係より

園側からの全体的に特に高く評価されていた者（本稿で取り上げた保育者としての勤務に関わる28項目の平均が3.0以上の者）についての自由記述欄には、「前向きに何事にも取り組んでいる」「日々頑張っている」「一所懸命頑張っている」「意欲がある」「日々努力している」「積極的に保育に取り組む姿勢がみられる」などと書かれている。また「とても素直で礼儀正しい」「礼儀正しく、挨拶も毎日元気にしている」「とても生き生きとした良い表情を見せてくれているので安心している」「明るく仲間とつながる大切さを、大学でのいろいろな経験の中で、学んでくれたのだと思っている」「協調性があり保育者としての言動が素晴らしい」などと書かれていた者もいる。ここで決して保育理論など知識が豊富である等は書かれておらず、またピアノのレベルの高い者についてピアノ技術について評価するような内容も書かれていなかった。それよりも何事にも意欲的に取り組み、注意等も素直に受け入れて、礼儀正しく明るく頑張っていこうとする姿勢や力のほうがとても大事であることがうかがえる。

これらに対して、園側からの全体的に低く評価されていた者（本稿で取り上げた保育者としての勤務に関わる28項目の平均が2.0未満の者）についての自由記述欄には、「最低限のルールは学んでから社会に出てほしい。」「社会人としての自覚をつけて頂きたかった。」「保育の技術、理論だけでなく、社会人としての基礎能力を身につけることも大切にしてください。」などと書かれており、いずれも社会人としての基礎力不足があったことが伝わる内容が書かれていた。平均得点が2.0未満であった者は4名いたが、そのうち3名については社会人としての基礎能力不足を指摘されており、1名については無記入であった。またこの4名のうち2名は就職後一年以内の早期退職をすることとなった。

これらの社会人としての基礎力に近い内容の評価項目に、「2-1 保育者としてふさわしいマナー（身だしなみ、態度、言葉遣い）ができていますか。」や「2-2 保育者として責任感をもって日々の業務に取り組んでいますか。」があり、これら社会人としての自覚につながる内容であり、上記の結果からも総合的評価との関係も深かった。本学では在学中に社会人としてのマナーを身につけられるように初年次より「ソーシャルスキル」の授業を設ける等、工夫しているので、入学後に社会人基礎力を向上させていける機会が多くある。そのため卒業生の多くは社会人としてのマナーを身につけており、社会人として日々業務に真摯に取り組んでいる者が多いと感じるが、一部の卒業生において、社会人基礎力欠如が見られることが非常に残念である。社会に送り出す前に、今まで以上に事の重大性を本人だけでなく私たち周囲の者も理解して、社会人基礎力が欠如したまま卒業することのないように努力しなければならない。

また「すべての学生に言えることですが、一般常識が足りない。」という意見もあり、在学中に一般常識を培えるように一層努力していく必要がある。

3.4 総合的な評価・各項目における評価得点と累積GPAとの関係より

卒業後における新人保育者としての各項目における評価得点と在学中のGPAの値との相関もみたが、すべての項目において相関はなかった（表2）。これは、在学中のGPAによって就職後の活躍を予測することはできないということを示しているといえよう。田中（2014）は、GPAと幼稚園での教育実習の成績との間に相関関係がないこともあることから、「学業成績のみにより、実習評価を説明すること

表2 平成27年度卒業生の保育者としての各評価・総合的な評価と在学中GPAとの相関

	GPAとの相関		
	相関係数	t値	p値
2-1 保育者としてふさわしいマナー(身だしなみ、態度、言葉遣い)ができていますか。	0.228	1.674	0.100
2-2 保育者として責任感をもって日々の業務に取り組んでいますか。	0.086	0.614	0.542
2-3 保育者として意欲的に専門性の向上に努めていますか。	0.092	0.662	0.511
2-4 保育者として必要な専門的知識をもち、保育の意義・役割について理解ができていますか。	0.115	0.829	0.411
2-5 保育者として必要な基本的技能と表現力を修得していますか。	0.101	0.726	0.471
3-1 子どもの支援について日頃から関心を持っていますか。	-0.016	-0.114	0.910
3-2 一人ひとりの子どもの気持ちを理解しようとしていますか。	0.119	0.854	0.397
3-3 子どもを理解し、自ら関わろうとする積極的な姿勢をもっていますか。	0.042	0.299	0.766
3-4 子どもの発達に合わせた働きかけができていますか。	-0.083	-0.593	0.556
3-5 日々の保育で曲想をとらえてピアノ伴奏をしていますか。	0.089	0.639	0.526
3-6 子どもの生活や遊びの観察と分析ができていますか。	0.128	0.918	0.363
3-7 保育理論を日々の保育に活かし工夫していますか。	0.098	0.703	0.485
3-8 子どもの発達と生活の状況を把握し、適切な教育や支援の計画ができていますか。	0.150	1.085	0.283
3-9 実践記録や評価において、実態把握をもとに適切な表現で記録できていますか。	0.159	1.149	0.256
3-10 子どもが安全に活動できるよう、常に気を配っていますか。	0.085	0.606	0.547
3-11 保護者と連携を密にしていますか。	0.158	1.140	0.259
3-12 子どもと保護者の関係についてよく把握していますか。	0.136	0.983	0.330
3-13 保護者に育児不安等が見られる場合には、育児等に対して相談・助言ができていますか。	-0.035	-0.250	0.803
3-14 子どもや保護者の個人情報について留意していますか。	0.188	1.366	0.178
4-1 職員間の人間関係を円滑にするよう努めていますか。	0.000	0.000	1.000
4-2 状況を見ながら積極的に自分の意見を出していますか。	-0.135	-0.975	0.334
4-3 必要なことについて園長先生や施設長先生、主任の先生方に報告、連絡、相談していますか。	-0.033	-0.233	0.816
5-1 自然・環境・文化などへの関心を持ち、基礎的な教養を習得していますか。	-0.053	-0.377	0.708
5-2 基本的なコミュニケーションスキルを習得し、適切な自己表現ができ、他者と良好な関係を築くことができていますか。	0.084	0.605	0.548
5-3 課題を的確に把握し、現実的な解決策を立案し、実行できていますか。	-0.131	-0.942	0.351
5-4 自らを振り返り、改善点を見出し、資質向上に生かすことができていますか。	-0.123	-0.886	0.380
6-1 現時点での本学卒業生の勤務状況について満足されていますか。	-0.011	-0.080	0.936
6-2 本学卒業生の保育者としての将来性についてどのように感じられますか。	0.047	0.338	0.737
6-1満足+6-2将来性	0.090	0.648	0.520
2-1から6-2までの総得点	0.072	0.513	0.610

は難しいように思われる。」と述べている⁶⁾。本研究では卒業して約半年たった時点での保育者としての評価と在学中の全教科累積GPAとの相関をみたため、さらに相関がなかったのかもしれない。今後、本学でも在学中の実習成績との関係や、次年度生から実施しているPROGテストとの関係なども調べていきたい。

4. まとめ

上述した通り、現況での満足度や将来性があると感じることに関係の最も深い項目は、「2-2 保育者として責任感をもって日々の業務に取り組んでいますか。」であり、2番目には、「2-1 保育者としてふさわしいマナー(身だしなみ、態度、言葉遣い)ができていますか。」であった。これらは、上述した通り自由記述欄に書かれた内容とつながる内容であり、日々の業務に取り組む姿勢が非常に大事だということを示唆しているであろう。これらに対して、現況での満足度や将来性があると感じることにあまり関係が深くはないようである項目に「3-7 保育理論を日々の保育に生かし工夫していますか。」と「3-5

日々の保育で曲想をとらえてピアノ伴奏をしていますか。」があった。自由記述にも「保育の技術、理論だけでなく、社会人としての基礎能力を身につけることも大切にしてください。」と書かれており、新人保育者時点での技術や能力よりも、新人保育者であるという立場をわきまえて、礼儀正しく意欲的に日々の業務に取り組み、前向きに学ばせていただくという姿勢が重要であるということがわかる。また現況での満足度や将来性があると感じることにあまり関係が深くはないようである項目に「3-13 保護者に育児不安等が見られる場合には、育児等に対して相談・助言ができていますか。」「3-4 子どもの発達に合わせた働きかけができていますか。」「4-2 状況を見ながら積極的に自分の意見を出していますか。」などもあった。これらも保育者としての経験を積み重ねていくことにより培っていくことができる力としてみてくださっているようである。

先に述べた通り全体的に特に低い評価であった4名中3名は社会人としての基礎能力不足を指摘されていた。かねてから、社会人としての基礎力の必要性は承知しており、ソーシャルスキル等の授業も設けて、各授業やAGHでも社会人としての基礎力向上につながるような教育を行ってきたのであるが、不十分なところがあったのである。これらの問題は保育者養成校としても深く反省して、今後の教育に活かしていきたい。またこうして就職先の先生方から問題を指摘していただけることは大変助かることである。今後も連携して、より充実した保育者養成を行っていきけるようにしたいものである。

謝辞

調査にご協力頂いた幼稚園、保育所、施設の園長ならびに施設長先生に感謝申し上げます。また調査の質問紙作成・集計を行って下さった本学学生課就職係の方々に感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 前迫ゆり、中田奈月、智原江美、高岡昌子、石田慎二、福田公教 研究紀要(2004) 地域の子育て環境づくりに向けての保育者養成校の課題と視座 ―奈良県内保育所の実態調査を通して―. 奈良佐保短期大学研究紀要12号: 27-44.
- 2) 江田美代子(2007) 保育士に求められる資質能力に関する調査研究. 宮崎女子短期大学紀要34号: 31-46.
- 3) 林悠子、森本美佐、東村知子(2012) 保育者養成校に求められる学生の資質について ―保育現場へのアンケート調査より―. 奈良文化女子短期大学紀要第43号: 127-134.
- 4) 林悠子、森本美佐(2014) 保育者に求められる学生の保育実践能力と資質について. 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部紀要第45号: 123-130.
- 5) 林悠子、高橋千香子、高岡昌子、岩本 健一(2016) 保育者養成に求められる保育者の資質について(2) ―就職先へのアンケート調査の前回調査との比較から―. 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部紀要第47号: 71-80.
- 6) 田中敬一(2014) 教育実習学内指導に関する一考察. 八戸学院短期大学研究紀要第38巻: 1-10.

